

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

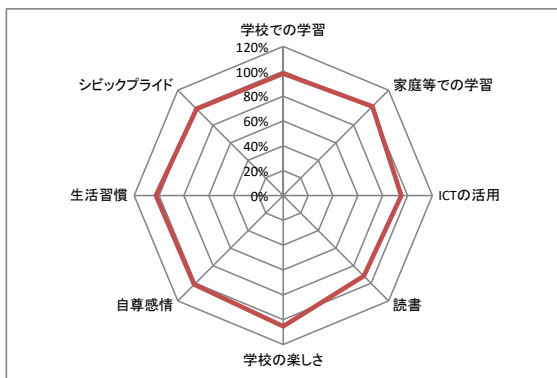
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」についてはいずれも全国平均を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」については全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・与えられた条件を満たして、自分の考えをまとめる問題(読むこと)。 ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる問題(話すこと聞くこと)。	
	努力が必要な問題	・日常よく使われる敬語を答える問題(言葉の特徴や使い方に関する事項)。 ・図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して記述する問題(書くこと)。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」については全国平均を上回っている。「数と計算」「図形」「変化と関係」についてはいずれも全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「～以上」の意味を理解して表から必要な数を読み取る問題(データの活用)。 ・小数の足し算やかけ算を用いて、求め方と答えを記述して条件に当てはまるか判断する問題(数と計算)	
	努力が必要な問題	・百分率(%)で表された割合についてとらえる問題(変化と関係) ・(2位数)÷(1位数)の筆算の商の意味や一の位が0の二つの2位数のかけ算の計算問題(数と計算)	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

「学校の楽しさ」「生活習慣」の全国対比が特に高かった。友達関係に満足していること、学校に行くことが楽しいと思うことが「学校の楽しさ」につながっている。また、毎日同じぐらいの時刻に寝たり、起きたりしている割合が高く、家庭での「生活習慣」が身に付いている傾向である。「読書」の全国対比が特に低かった。学校の授業時間以外での読書時間が短く、読書が好きな児童が低い。また、「授業でのICTの活用」の全国対比も特に低かった。学校の授業時間以外で勉強のためにICT機器を使っている児童は全国比より高く、PC・タブレットなどのICT機器が勉強の役に立つと思っているが、授業の中でICT機器をあまり活用していないと感じている実態がある。

そして、地域の行事に参加しているという児童も少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

図形の見方・考え方を働かせながら取り組むことができるような活動場面を設定する。また、PC・タブレットなどのICT機器を活用して、分かりやすい学習指導の工夫を行う。読書活動を推進して活用できる言葉を増やししながら、図表やグラフ、文章などの資料を用いて自分の考えが伝わるように書き表すことができるようにする。個別最適な学びを推進するために、ICTの活用を充実させる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

読書の習慣を身に付けることができるように、学校での読書活動の時間を増やす。また、いつでも気軽に読書できるように図書室や学級文庫の環境を整備する。今住んでいる地域に関心をもてるように、各学年の実態に応じて地域の方にゲストティーチャーなどで来校していただき、継続的に交流を深め、シビックプライドのさらなる醸成に努める。